

文化のまちづくりを発信

大型市民参加公演

子どもから大人まで一緒に作品をつくり上げます。地域のつながりを深め、郷土愛を育み、公演を通して新たなコミュニティをつくります。ミュージカル、演劇、コンテポラリーダンスを3年サイクルで実施します。



オープン・シアター・コンサート (新日本フィルハーモニー交響楽団)

障がいのある人、小さなお子さんがある家庭など、普段は劇場に出掛けることが難しい人でも気軽にクラシックを楽しめる、誰にでもオープンなコンサートです。



日本語学習支援

ばら教室KAN I は、日本語を話せない外国人児童・生徒が小中学校に通うため、日本語や日本の生活に慣れる教室です。身の回りの整理整頓や清掃活動など学校生活の流れを大事にした活動も行っています。

またフレビアでは、生活するために必要な日本語の読み書きや会話、日本の文化を学ぶ教室を開催しています。子どもから大人まで、多様なニーズに対応しています。



多文化共生プロジェクト

さまざまな国籍の市民が交流し、文化や慣習の違いを超えて舞台作品をつくります。アーラやフレビア、ばら教室が連携し、お互いの個性や価値観の違いを認め合う多文化共生のメッセージを市民に伝える場となっています。



障がいのある人の可能性(able)に注目したエイブル・アート展(2017年)

文化の取り組みが全国表彰されました

文化創造センター・アーラ（以下アーラ）は、文化芸術の持つ力を活用して、子育て支援や市民の生きがいづくりなど、地域の課題解決をめざすプロジェクトに取り組んでいます。

また市内には人口の約7%を占めるほどの多くの外国籍の人が暮らし、多文化共生センター・フレビア（以下フレビア）を中心に、さまざまな事業を進めています。

これらの取り組みが認められ、平成29年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受賞しました。これは優れた文化的なまちづくりを行う自治体を表彰するもので、本年10月26日に宮田文化庁長官から高木副市長に、賞状と記念品が手渡されました。受賞したのは、可児市の他、北九州市、熊本市の3市のみです。

さまざまな機関と連携して、全国でも先駆けとなって進める活動を紹介します。

問合せ先 人づくり課



記念品の盾